

患者教育指導技術を学習するために導入した学生間の
role-play法による効果の一考察

—— 2型糖尿病の成人事例のインスリン注射、食事指導を通して ——

生島 祥江 福田 和明 岩切 由紀
杉野 文代 松村三千子

**A Consideration on the Effects of Incorporating a Method
of Student Role-Play as a Technique of Educating Patients,
by Way of Instructions on Insulin Injection and Diet for
Case of Adult Patients with Type II Diabetic.**

Yoshie IKUSHIMA Kazuaki FUKUDA Yuki IWAKIRI
Fumiyo SUGINO Michiko MATUMURA

SUMMARY

This study utilizes the case study of diabetic patients to examine learning from the demonstration of educational instruction through the role-play method and to evaluate its pedagogical effects. The subjects of this study are 72 sophomore nursing students at T junior college. As a result of research, post-demonstration learning among the students was broken into four categories of “explanation comprehensible to the learning subject”, “development of teaching instruction directed toward behavioral change”, “preparedness and attitude of nurses themselves”, and “importance of understanding the learning subject”, and it was structured from factors of support, concreteness, preparedness, and attitude. The learning effects for students who used the role-play method during demonstration of patients' education was to guide the learning subjects with an attitude that assess their patients' understanding level and to do this with concrete strategies that supported behavioral change while preparing and guiding the content of patients' education.

本研究は、糖尿病患者の事例を用いて、role-play法による教育指導演習後の学びを調査し、学習効果を考察することを目的とした。対象はT短期大学看護学科3年生72名とした。その結果、演習後の学生の学びは、「対象者が理解できる説明」、「行動変容に向けた教育指導の展開」、「看護師自身の準備と態度」、「対象理解の重要性」の4つのカテゴリーに分類され、「支援」、「具体性」、「準備」、「態度」の要因から構成されていた。学生間のrole-play法を用いた患者教育演習での学習効果は、対象者の理解状況を把握しようとする態度で行動変容に向けて支援する具体策を用いて指導していくこと、患者教育指導内容を準備して指導することであった。

はじめに

本学では、成人看護学実習において、主にセルフコントロールを必要とされる患者を受け持ち、患者自身が症状コントロールや二次合併症の予防ができるよう教育指導内容を計画・実践し、評価することを目的とした科目を設定している。科目設定理由は、慢性疾患が増加し、自己管理に向けて患者教育が促進されているため、学生に患者教育を学習する機会が必要と考えたからである。しかし、先行研究では、学生が臨地実習で看護上の判断に困難を感じる場面として、患者教育の進め方をあげていると報告されている¹⁾。このような状況を生じないような教育方法として、模擬患者を設定したrole-play法を導入し、検討されていることも報告されている^{2) 3)}。

そこで、臨地実習前に、患者教育指導技術の実践能力の向上を図ることを目的に、糖尿病患者の事例を用いたrole-play法による教育指導演習を行った。学生は、教員が抽出した主要内容に基づき教育指導案を立案し、role-playを実施した。演習終了後には、学びをレポートとして提出するよう求めた。

この学生のレポートを分析した結果、学生間のrole-play法による患者教育指導技術の教育方法において、効果が明らかになったので報告する。

研究目的

糖尿病患者の事例を用いて、教育指導演習をrole-play法で行い、演習後に学生に自由記載し

てもらった学びの内容から、質的研究方法により分析し、role-play法による学習効果について明らかにする。

研究方法

1. 研究対象

平成15年度T短期大学看護学科（3年制課程）3年生72名（男性4名、女性68名）

2. 調査方法

3年生臨地実習開始前の4月に実施した2型糖尿病患者の教育指導技術演習後の学生レポートで調査した。レポートは、グループ討議後に、A4版の用紙（罫線なし）1枚に学んだことを自由記載してもらい、演習終了後に回収した。

3. 分析方法

データの分析は、Berelsonの内容分析を用いた。記録単位は、演習を通して患者教育指導に関して「学んだこと、感じたこと」が記述されている主語と述語からなる1文章とした。1文章ごとに比較し、その意味内容の類似性に沿って分類したのちコード化した。そして、類似しているコード内容を比較検討し、患者教育指導の構成を示す内容をカテゴリー化し、カテゴリーとサブカテゴリーを抽出した。抽出内容については、研究者間で検討し、スーパービジョンを受け決定した。

4. 演習方法

8～9名を1グループとし、「糖尿病の食事療法の基本と食品交換表の使い方」と「インスリンの作用と副作用、インスリンの自己注射の手技」の2テーマについて、各グループ1回ずつ教育指

導を実施した。学生全員が看護師役・患者役を経験したのではない。演習時期は、3年生臨地実習開始前の4月に、連続した2日間に、90分（1コマ）ずつ、計180分を設定した。学生は、1日目に、2年後期開講の成人援助論で展開した糖尿病患者の事例に対して、教員が提示した指導目標と主要内容に沿って、所要時間を20分程度とした2つのテーマの教育指導案を作成した。そして、2日目に、立案した教育指導案に基づいて、学生が看護師役・患者役となってrole-playを実施した。その後、演習内容について、指導目標の達成度、指導内容・方法の評価を視点を、グループ討議した。

5. 倫理的配慮

演習後のレポートは、患者教育に関する授業の充実を図るために、研究目的で使用する事、その内容は匿名で処理することを口頭で学生に説明

した。研究の同意は、レポートの提出をもって得られたものとする事を伝え、参加は自由で、途中の辞退も可能であり、レポートの提出の有無は成績に影響しないことを説明した。

結 果

本調査への協力を得られたのは、対象学生72名全員で、回収率100%であった。

72のレポートから患者教育指導に関して「学んだこと、感じたこと」が明確に記述された530記録単位を分析した。その結果、「対象者が理解できる説明」、「行動変容に向けた教育指導の展開」、「看護師自身の準備と態度」、「対象理解の重要性」の4つのカテゴリーで構成された（表1）。抽出された記録単位数の多いカテゴリーから順に、その内容を以下に述べる。

表1 role-play法による患者教育指導における学生の学び

カテゴリー	サブカテゴリー	記録単位数
対象者が理解できる説明	対象者の理解状況の把握	67
	説明に用いる言語・表現	62
	媒体の作成と工夫	49
	対象者が説明内容を理解できる工夫	48
	教育指導の困難さ	28
	適切な説明の速度、指導時間	27
	教育指導のための環境づくり	10
行動変容に向けた教育指導の展開	対象者の行動変容につながるような指導内容	72
	対象者の個別背景に沿った指導	45
	対象者が参加する指導の方法	15
	指導対象の選定・参加	4
	患者の気持ち理解	2
看護師自身の準備と態度	看護師自身の準備	69
	看護師の態度	18
対象理解の重要性	指導前の認知度の把握	7
	指導前の生活行動の把握	5
	状態の把握	2

1. 対象者が理解できる説明

カテゴリーは、291の記録単位から形成され、さらに、「対象者の理解状況の把握」、「説明に用いる言語・表現」、「媒体の作成と工夫」、「対象者が説明内容を理解できる工夫」、「教育指導の困難さ」、「適切な説明の速度・指導時間」、「教育指導のための環境づくり」の7つのサブカテゴリーで構成された。

1) 対象者の理解状況の把握

67の記録単位から形成された。「対象者の反応・表情を観察しながら説明する」、「質問しやすい雰囲気をつくる」、「対象者の理解程度の確認が必要である」、「対象者が返答しやすい問いかけ方法を工夫する」などであった。

2) 説明に用いる言語・表現

62の記録単位から形成された。「わかりやすい言葉で説明する」、「対象者に応じた言葉を選択する」、「非言語的表現を活用して説明する」、「肯定的な言葉を用いて説明する」などであった。

3) 媒体の作成と工夫

49の記録単位から形成された。「わかりやすい媒体を作成する」、「媒体を作成するとよい」、「対象者に合った媒体を作成する」などであった。

4) 対象者が説明内容を理解できる工夫

48の記録単位から形成された。「媒体を用いながら指導する」、「わかりやすく説明する」、「対象者が理解できるように説明を工夫する」などであった。

5) 教育指導の困難さ

28の記録単位から形成された。「教育指導は難しい」、「限られた時間で指導することが難しい」、「教育指導は大変である」などであった。

6) 適切な説明の速度・指導時間

27の記録単位から形成された。「対象者のペースに合わせて指導する」、「対象者を見ながら説明する」などであった。

7) 教育指導のための環境づくり

10の記録単位で形成された。「対象者と看護師

との位置関係が重要である」「対象者の学習環境を整える」であった。

2. 行動変容に向けた教育指導の展開

カテゴリーは、138の記録単位から形成され、「対象者の行動変容につながるような指導内容」、「対象者の個別背景に沿った指導」、「対象者が参加する指導の方法」、「指導対象の選定・参加」、「患者の気持ちの理解」の5つのサブカテゴリーで構成された。

1) 対象者の行動変容につながるような指導内容

72の記録単位で形成された。「指導内容を焦点化して指導する」、「対象者が興味のもてる内容を説明する」、「意欲を引き出すような指導をする」、「例を提示しながら説明する」などであった。

2) 対象者の個別背景に沿った指導

45の記録単位で形成された。「個別性を踏まえて指導する」、「対象者の生活に応じて指導する」、「対象者の経験を踏まえて指導する」などであった。

3) 対象者が参加する指導の方法

15の記録単位から形成された。「対象者とともに考えながら指導する」、「対象者の作業を取り入れて指導する」であった。

4) 指導対象の選定・参加

4記録単位から形成された。「キーパーソンとなる者の参加を求めて指導する」であった。

5) 患者の気持ちの理解

2記録単位から形成された。「指導受ける患者の気持ちを理解して指導する」であった。

3. 看護師自身の準備と態度

87の記録単位から形成され、「看護師自身の準備」と「看護師の態度」の2つのサブカテゴリーで構成された。

1) 看護師自身の準備

69の記録単位で形成された。「指導内容を理解していなくてはならない」、「基礎知識が必要である」、「コミュニケーション技術が必要である」などであった。

2) 看護師の態度

18の記録単位から形成された。「質問に対し対応できなければならない」、「看護師として適切な指導態度が求められる」、「対象者の立場にたって指導する」などであった。

4. 対象理解の重要性

14の記録単位から形成され、「指導前の認知度の把握」、「指導前の生活行動の把握」、「状態の把握」の3つのサブカテゴリーで構成された。

1) 指導前の認知度の把握

7記録単位から形成された。「対象者の指導前の知識を把握する」、「対象者の理解度を把握する」などであった。

2) 指導前の生活行動の把握

5記録単位から形成された。「対象者の指導前の生活を把握する」などであった。

3) 状態の把握

2記録単位で形成された。「対象者の状態を詳しく把握する」などであった。

考 察

看護基礎教育におけるrole-play法は、知識や技術の習得、看護技術の自己評価、患者や状況理解などに活用される。患者教育指導は、患者が無意識に選択している行動を明確にし、その選択でよいのか、健康のために自分で考え、決められるよういくつかの基本的な方法を紹介することが重要である。教育指導の実際に向けて教育指導案を作成するが、その内容は、病気をもって生活するための健康行動について組み立てるにとどまる。教育指導の展開には、コミュニケーション技術が基盤となっており、role-play法を用いることで知識や技術の習得につながると考え、用いた。

学生の学びの内容は、「対象者が理解できる説明」、「行動変容に向けた教育指導の展開」、「看護師自身の準備と態度」、「対象理解の重要性」の4つのカテゴリーで構成され、その中核として、関の研究²⁾で、インスリン自己注射導入模擬患者へ

の患者教育演習後の学びの内容から導かれた「具体性」、「準備」、「態度」の3つの概念が考えられた。関は、「具体性」とは「患者教育を実践する内容・方法の詳細を明らかにすること」、「準備」は「患者教育を実施するために前もって実施内容を段取りすること」、「態度」は「患者教育を行う時に接するあり様・姿勢」を意味すると述べている。さらに、患者教育内容として「支援」が考えられた。これも関の研究において学生が考えた模擬患者教育の概念に一致する。「支援」とは、「患者教育を受ける患者への身体的・精神的・社会的援助」を意味すると述べている。教育指導の実際に向けて作成した教育指導案では、伝達方法の具体性が欠けていることが、体験を通して学び得たと考えられる。また、双方向のコミュニケーションを通して看護師の態度を学び得たと考えられる。さらに、role-playの実際を体験したり、場面を観察したりすることで、患者教育の基本である支援について理解できたと考えられる。

role-play法による学習効果としては、仲沢³⁾が、「患者の反応をどう受けとめ、どのように対応するか判断し、患者の反応を受けとめる必要性を理解することに意義がある」としている。いわゆる双方向のコミュニケーションをとるため、紙上での展開と違い、看護師役が患者役の反応を通して言語的コミュニケーションが可能である。本演習において、67記録単位があった「対象者の理解状況の把握」において、「対象者の反応や表情を観察しながら説明する」、「対象者の理解程度の確認が必要である」とあげていた。学生は、すでに基礎看護学において患者教育の基本を習得し、集団を対象とした健康教育指導を体験している。しかし、個人を対象としてrole-play法による患者教育指導を行ってみて、集団に対してとは違い、対象者の反応が視界に入り双方向のコミュニケーションが求められるため、対象者の反応や理解の仕方をみながら対応する必要性を学んだと考えられる。また、role-playでの患者役からの反応を

通して「質問しやすい雰囲気をつくる」などの「対象者の理解状況を把握」するための方法・手段や「説明に用いる言語・表現」を考える必要性、「媒体の作成と工夫」をしてよりわかりやすく説明する必要性を学んでいたと考えられる。さらに、藤岡⁴⁾によると、role-play法の目的の一つとして、「学習内容の活用や人間関係の洞察力の育成、関心の向上などに効果を上げる」とある。69記録単位があった「看護師自身の準備」において、「指導内容を理解してはならない」、「基礎知識が必要である」とあげていた。このことから、指導内容の理解が不十分であったことや基礎知識が不足していたために、学習内容が有効に活用されず、習得の必要性を感じたと考えられる。また、138記録単位があった「行動変容に向けた教育指導の展開」において、「意欲を引き出すような指導をする」、「養生法を継続しようと思えるような指導をする」、「対象者の生活に応じて指導する」などがあがっていた。role-play段階の患者役の反応を通して、対象者に関心が増し、社会的背景を踏まえ、精神的な援助も含めた教育指導内容の必要性について学んだと考えられる。個人を対象とした教育指導では、対象者を理解したうえで教育内容が必要となるが、「対象理解の重要性」は14記録単位と少なかった。これは、学生なりに対象を理解した教育指導案を作成しており、role-play段階で学ぶ内容ではないと考えられる。

学生は、role-play法を用いた患者教育演習において、対象者の理解状況を把握しようとする態度で行動変容に向けて支援する具体策を用いて指導していくこと、患者教育指導内容を準備して指導することを学んだと考えられる。

本研究の限界と今後の課題

本研究結果は、学生の自由記述によるレポート内容の分析であり、それが学生の学びの全てであるとは限らない。今後研究結果をもとに、成人の患者教育指導技術の習得に向けて演習プログラム

を検討していく必要がある。

ま と め

以上の結果から、role-play法を用いた患者教育演習の学習効果について以下のような結論が得られた。

role-play法を用いた患者教育演習実施後の学びは、「対象者が理解できる説明」、「行動変容に向けた教育指導の展開」、「看護師自身の準備と態度」、「対象理解の重要性」の4つのカテゴリーに分類され、「支援」、「具体性」、「準備」、「態度」の要因から構成されていた。

学生間のrole-play法を用いた患者教育演習での学習効果は、対象者の理解状況を把握しようとする態度で行動変容に向けて支援する具体策を用いて指導していくこと、患者教育指導内容を準備して指導することであった。

引用・参考文献

1. 布佐真理子：臨地実習において看護学生が看護上の判断困難を感じる場面における指導者の働きかけ、日本看護科学学会誌、19 (2)、78-86、1999
2. 関美奈子：学生間のrole-playを用いた患者教育の学習効果の検討—初回インスリン自己注射導入の模擬患者を用いて—、日本看護教育学会誌、13 (1)、1-9、2003
3. 仲沢富枝：教育・指導技術を学習するための教育方法の一考察—DM患者の指導計画案およびロールプレイングを実施して—、看護教育、42 (5)、398-402、2001
4. 藤岡完治、野村明美：わかる授業をつくる看護教育技法3. シュミレーション・体験学習、医学書院、2000
5. 木場富喜他：看護実践の教育・指導技術—健康教育・患者指導の基礎と技法、日総研、1995
6. 関美奈子、上田稚代子、竹村節子：学内演習における患者教育内容の分析—学生が実施し

たインスリン自己注射指導のレポート内容から一、日本看護学教育学会誌、11 (3)、35-44、2002

7. 舟島なをみ：質的研究への挑戦、医学書院、1999
8. 村田陽子：ナースのための患者教育、日経BP社、2002
9. Charmaine Cummings；武山満智子訳：患者教育のポイント—アセスメントから評価まで一、医学書院、1990